

8月6日(火)

私は知っていることを知っている

聖書朗読 ヨハネ 15:26~16:4

そのために、私はこのような苦しみにも会っています。しかし、私はそれを恥とは思っていません。というのは、私は、自分の信じて来た方をよく知っており、また、その方は私のお任せしたものを、かの日のために守ってくださることができると確信しているからです。

Ⅱテモテ 1:12

私が子どもだった時、かつてイエス様が歩かれた場所を歩く祝福に与りました。地理的にとても近くに住んでいたため、家族も私も喜んで古代の聖書の地を訪れる機会を作りました。キリストの歩んだ道をたどることは、私が若い心のうちに、イエス様がご自身で語られた通りの方であるという確信を得る助けになりました。それでも、何年後になって、私は自分の信仰も試練にあうことがあるのだと悟りました。

若い頃、ある期間、信頼のおける同僚が私に神様の言葉は事実ではないということをお勧めさせようとしてきました。これまで、そんな不安にさせる見解を聞いたことがなかったので、彼女の意見は私を驚かせました！ 自分のためだけでなく、他の人々にイエス様が主であることを証言するために、自分のキリストへの信仰を日々育てなければならぬと私が気づいたのはその時でした。

イエス様は肉体をもって私と一緒に歩いたことはありません。私は、自分が人間的な問題と格闘しているときに、イエス様が安らかな声で、「私が傍にいる」と告げてくれるのを聞いたことはありません。しかし神様は、私が献身的な歩みと苦闘するときに、私の心に住み、安心させるようにと聖霊を送ってくださいました。なんといいかけがえのない贈り物でしょう！ ですから、私は自分がイエス様の歩いた土地を歩いたことと同じくらい確かに、イエス様が今すべてにおいて私と共に歩いてくださっていると知っているのです。

讃美歌 298

祈り 父なる神様、今日私があなたの道を歩もうと努力する時、私が見つけることができないような場所に、あなたが私を連れて行かないことを知るための力と信仰をください。私が、自分の人生に対するあなたの望みをいつも見極められるように助けてくださる、慰め主である聖霊に感謝します。イエス様に感謝します！

イエス様の尊い御名によって。アーメン。

キャシー・R・メレディス
テキサス州 フォート・ワース

8月7日(水)

ピラトの大広間で

聖書朗読 ヨハネ 18:28~37

さて、彼らはイエスを、カヤパのところから総督官邸に連れて行った。時は明け方であった。・・・

ヨハネ 18:28

私が初めて聖書の地に旅行に行ったのは1978年でした。インドへの宣教旅行の道すがら、私たちはエルサレムを訪れるために寄り道したのです。

私は初めて街を見た瞬間を決して忘れないでしょう。下の溪谷より高い丘を回って、私たちはエルサレムを囲む古代の城壁を見ることができたのです。なんとという光景だったことでしょうか！

ベツレヘム、エリコ、死海、マサダを訪れ、そしてガリラヤ湖でボートに乗る中で、私はマーシャル・ケーブルがずっと昔に言ったことが真実であることを学びました。「彼らはあなたをあちこち連れて行き、ここがこれそれの起こった場所だと言い、あなたはそれが本当かどうか知らないでしょうが、しかし私は知っています、私の主はここにいたのです。」多くの場所が、明らかに聖書の出来事が起こった当時の状況と違っていました。いくつかは当時のままでした。

そんな場所の一つがプラエトリウム、ピラトの裁判の議場でした。何世紀も大量の土に覆い隠された後に、建築家が黄色い床を見つけるために掘り下げたのですが、それはいまや磨かれてきらきらと輝いています。私たちは、ここがイエス様がピラトの前に立ち、ご自身を王であると宣言された場所だという話を聞きました。イエス様は今もなお、すべての王です！

讃美歌 121

祈り 愛するお父様、イエス様が私たちのために耐えてくださったことを思う時、私たちは神様の愛にあまりにふさわしくない者であると感じますが、あなたが私たちを愛してくださったことに心から感謝します。

イエス様の御名により。アーメン。

セラース・S・クライン・ジュニア
テネシー州 マディソン

8月8日(木)

魂の目覚め

聖書朗読 ヨハネ 20:10~18

イエスは彼女に言われた。「マリヤ。」・・・

ヨハネ 20:16

私の毎朝の目覚めの習慣はスヌーズボタンを押し、目をこすり、ストレッチをして、そしていつもコーヒーを飲むことです！しかし私は、目覚めるということはコーヒーによって起こされる意識以上のものであるということを理解し始めています。

詩篇著者は「目覚めよ、わが魂よ！」と歌いました。もし私の全存在がはっきり目覚めていたら、人生はどのようなものになったのでしょうか？

今日の聖書箇所、復活の場面のある瞬間、ある言葉がありますが、それは特に私の希望を魂の目覚めへと向けさせました。マグダラのマリヤは何の説明もなしに空になった墓に立っていて、悲しみと混乱にひどく我を忘れていました。彼女はこの困った状況にすっかり沈み込んでしまい、生きているイエス様の声ですらその悲しみの中に沈んでしまいました。それで、イエス様は辛抱強くもう一度、今度は魂を呼び起こすある言葉で呼びかけました。「マリヤ！」この言葉が、彼女の中に激しい喜びと讚美の心を目覚めさせました。

人の魂には、イエス様の言葉によってでなければ目覚めることのない眠りがあります。それはかつて語られた言葉だけではなく、いつか来る復活の日に語られるであろう言葉だけでもありません。それは今日のための言葉でもあるのです。イエス様は私たちの名前を呼んでくださり、イエス様の臨在に心を向けさせてくださり、私たちの内の聖なる活力に火をつけてくださり、神様によってあふれるばかりに満たされた、深くリフレッシュした、はっきり目覚めた人生に向けて私たちの心を開かせてくださるのです。

讚美歌 370

祈り 主よ、中身のない気晴らしによる雑音を静めてください。私の耳が不安や恐れを聞かないようにしてください。失望と苦痛が発する、魂を凍らせる声を消してください。私の全存在を、あなたの臨在に向けて目覚めさせてください。

イエス様の御名により。アーメン。

デイヴィッド・パウンズ
テキサス州 アマレロ

8月9日(金)

言葉によって作られた肉

聖書朗読 ヨハネ 20:26-31

トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」

ヨハネ 20:28

あなたは思いもかけない場所で古い友人とばったり会ったことがありますか？ ことによると何年も会っていなかった友人に。あなたはすぐにその人を認識しましたか？ 人違いであった場合を考えて話しかけるのをためらいませんでしたか？

仮にあなたがイエス様の友人であったとして、あなたは復活された後のイエス様を認めることができたと思いますか？ イエス様の最も近い友人でさえ、彼を認めるのに苦労しました。彼らはイエス様を見たのですが、ただ信じることができなかったのです。それゆえにイエス様は疑いを晴らすために決して間違えようのない証拠を提示しました。

イエス様にとって、そしてトマスにとっても、受難の傷痕は明らかに重要なものでした。弟子たちはイエス様が本当に人間であるかを知る必要があったのです。イエス様はすでにご自身の手とわき腹を他の人々に見せていました。つまりイエス様は杭で打たれた手と、槍で貫かれたわき腹をトマスに見せていたのです。トマスはイエス様を、苦しみを受けられた救い主であり、偉大な御言葉によって作られた肉体であると認めました！ 全てにおいて愛すべきお方は今なおその傷に耐えておられます。

そしてイエス様がトマスに、そしてすべての弟子たちに見せた傷痕は、単にイエス様の生と死を証するだけでなく、同時にイエス様が死を超えられた方であることをも証したのです。イエス様はインマヌエル、つまり「主と共におられる」であり続けるのです。

讚美歌 515

祈り 主よ、世界が今まで聞いたことのないほど最も素晴らしいこの知らせを、私たちが今週見て信じ、喜びをもって分かち合うことができますように。「キリストは死んでおられない！ 彼は私たちが生きることができるようにそれをすべて耐え忍ばれた！」と。私たちは感謝します。

イエス様の御名により。アーメン。

ナン・キャンプ
テキサス州 セリーナ

8月10日(土)

コンピュータと恵み

聖書朗読 ヨハネ21:15-19

あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。
エペソ2:8

私はコンピュータを使わずに育ちました。私はコンピュータについての知識を夫や子どもたち、そしてトライ&エラーから学びました。コンピュータにはあるボタンがあり、それは私のお気に入りになりました。それは後ろ向きの矢印が彫ってあり、「やり直し」を意味するものです。その小さな矢印は私の何時間にもわたる仕事を救って来てくれました。私が間違えて消したくない文章を消去してしまったとき、一度のクリックでその文章を回復してくれます。後ろ向きの矢印は、私に第二のチャンスを与えるのです。

ペテロはたくさん失敗をしました。彼はよく自分の口で約束をしながら、後になって彼の体はそれを守り切ることができませんでした。ペテロは後ろ向きの矢印がついたコンピュータを持っていませんでしたが、しかし彼は主が第二のチャンスをくださることを知っていました。彼は恵みに満ちたイエス様に仕えていたのです(ヨハネ1:14)。恵みは、私たちが失敗したときに最もよく気づくものですが、ペテロは単に見るだけでなく、イエス様にあって経験することで、その恵みを逃しませんでした。

ペテロは二つの手紙をどちらも「恵み・・・があなたがたの上にあります豊かにされますように」という言葉で始めています。ペテロは自分が受け取った恵みを決して忘れませんでした。私たちは、自分が当然受けるべきものではなく第二のチャンスをくださる、同じ主に仕えていきましょう。私たちはあまりにも多くの恵みを受け取っているのです。

讚美歌 第二編167

祈り 親愛なる主よ、わたしたちは、あなたが恵みの主であり、私たちがあなたの豊かな恵みを受け取る者であるために、あなたを讚美します。私たちの日々の生活が恵みにあふれ、それによって他の人々があなたを見ることができるよう。

イエス様の御名により。アーメン。

サリー・シャンク
オクラホマ州エドモンド

8月11日(日)

外観を高く保つこと

聖書朗読 使徒5:1-11

悪者のことばは血に飢えている。しかし正しい者の口は彼らを救い出す。
箴言12:6

かつて少女だったころ、私は自分が教会で不法であったことを自覚していました。私は一番の親友であるゲイルに、「私たちが礼拝中におしゃべりをしていた理由について、お父さん(伝道者)になんて言ったらいいかしら？」と訊きました。彼女は私に聡明な助言をしました。「ただ真実を言えばいいのよ。そのことについて自分が申し訳なく思っていて、もう二度と同じことはしないって。」

親友の助言は魔法のように効きましたが、それが私がおしゃべりをしてしまうという習慣を変えることには至りませんでした。私は自分がその習慣を断ち切らなければならないと知っていました。私たちはよく、罰を避けるために自分たちの習慣を合理化します。真実に向き合い謝罪することは、より良い習慣や人間性の成長への取り組みになります。

ですから、子どものみなさん、ただ真実を言いましょ。正直になって「許してください」と言うのです。そして大人の方々、「恐れながら自分が行なった悪しきことの結末を待つことをやめませんか？」

自分を明らかにし、光の中で生きることによって、すべてにおいて神様に栄光を帰す取り組みをしようではありませんか。最も小さい嘘のうしろにさえ隠れてはなりません。その主にある希望の望みを置く生き方は、罪にどんな覆いも掛けません。なんと祝福された生き方でしょう！

アナニヤとサピラは気前よく犠牲的であるように見せようとしてしました。神様はいつも、私たちの、神様が私たちを見るように自分自身を見たいという願いを祝福しようと望んでおられます。神様はそれだけにとどまりません。

神様は私たちに、自分たちがどんなふうになれるかを明らかにしてくださり、そして私たちの人生の中で働くように聖霊を送ってくださるのです。

讚美歌 452

祈り 親愛なる神様、今日、あなたの真実と光を私たちの内に、放ってください。
イエス様の御名により。アーメン。

アン・K・ヤング
コロラド州 モニュメント